

大滝ダム白屋地区亀裂現象対策検討委員会

第2回委員会 議事要旨

日 時：平成 15 年 8 月 1 日（金） 10:00～12:00

場 所：メルパルク O S A K A 5 階「孔雀」

出席者：

委員長 渡 正亮（地すべり学会顧問）
委 員 吉松 弘行（砂防・地すべり技術センター斜面保全部長）
" 中村 康夫（独立行政法人土木研究所地質官）
" 永山 功（独立行政法人土木研究所水工研究グループ長）

議事について：

1. 降雨および貯水状況の確認

現在までの降雨および貯水状況について確認を行った。

2. 観測データの確認

現在までの観測データについて確認を行った。第一回委員会以降、地表変動を計測する一部の地盤傾斜計において継続的な変動が認められた。また、地盤内の変動を計測する孔内傾斜計 6 孔において、継続的な変動が確認された。地盤伸縮計とクラックゲージについては、一部において継続的な変動が確認された。水中テレビロボットによる水没法面の調査では、明瞭ではない部分もあるが、下流斜面の一部で変状が確認された。

3. 調査結果取りまとめ

亀裂現象は、時期的に、亀裂の発生は貯水後に確認された。その変位は現在も継続している。貯水池斜面の多くの計器は関連して変動している。調査ボーリングの孔内傾斜計、地表面の伸縮計、傾斜計、クラックゲージ、ピン計測などが同時期に、同じ傾向の変位を生じている。孔内傾斜計で発生している変位の深度は、貯水面より 20～30m 程度深い位置である。各計器の変動は降雨とは特に関連性が認められない。水没斜面では水中カメラ撮影により、新たな亀裂が確認された。、 から、地すべり現象であると考えられる。～ から、ダム湛水が原因と認められる。

亀裂現象が確認されてから、約 3 ヶ月経過し、変動が累積していることから早急な沈静化対策が必要であると考えられる。このためには、貯水位を 0.5m/日を超えない速度で低下することが必要である。この場合、地下水位が貯水位と連動して変化していることを確認しながら、十分な監視観測体制のもと慎重に低下させることが提言され、了承された。

4. 調査計画

現在実施中の調査を急速に進めるとともに、亀裂現象の発生機構のメカニズムと範囲および対策に必要な調査を実施することが了承された。

5. その他

次回委員会は、9 月末～10 月に実施するものとした。ただし、必要な場合はそれ以前においても、委員会を開催することを確認した。